

分類	助言	考え方（主な意見より）	意見からのキーワード
丘珠空港の利活用の在り方・空港の利活用策に関する助言	<p>現在の運用の中で空港の利用価値を高めることと、大規模な整備を伴う空港の将来像に関することは切り離して検討することが必要であり、短期的に実施可能な利活用策は積極的に取り組んでほしい。</p>	<p>2018年2月に北海道と札幌市が公表した「丘珠空港の利活用に関する検討会議」報告書では、21の利活用策がケーススタディとして載せられている。その利活用策は、滑走路延伸という長期的視野に立った大規模な整備を伴う策から、除雪体制の強化や呼称の募集など現在の運用の中で利用者利便性を高めるために単発で実施可能な策まで混在している。</p> <p>滑走路を延伸した場合の将来像というのは今の空港とは非連続的なものとなるため、現在の空港の利用価値を上げていくという短期的な目標設定の中での利活用ということと、大規模な整備を伴う将来の利活用ということを分けて議論することが必要である。</p> <p>最近の好調な旅客数の推移に胡坐をかかずに、冬期間の安定運航のための除雪体制の強化や空港アクセス強化、搭乗橋や商業施設などの空港ターミナルビルの機能拡充等、現実の課題として議論し、可能性があるものは先行的に検討、実施していく姿勢があってもいい。</p>	<p>議論を分ける、短期に出来ることはやる、除雪体制の強化、アクセス強化、空港ターミナルの機能拡充（搭乗橋）、道内路線の誘致・拡大</p>
	<p>利活用の議論は、地域への環境面、安全面の配慮が前提条件であることを念頭に進めて頂きたい。</p>	<p>地域の説明会では、やっぱり地域に住んでいるのは私達なんだ、やっぱり私達が安心して住めるようにということを入れてほしいとの意見があった。</p> <p>利活用を考えるときには、住民の方にとっての快適な生活というようなことを前提にしないといけないというのは議論として当然のこと。環境面、安全面というようなことは前提条件であり、齟齬の無いことを担保しながらというような議論を当然とすべきではない。</p> <p>丘珠空港の活用というのは大きなテーマになっている。ただし、地元の理解とか、物理的な制約が解消されるということが前提かと思っている。</p>	<p>安心、環境、安全、地元の理解、前提条件</p>
	<p>道内7空港の運営の民間委託が2020年から始まることなどを踏まえ、効果的な利活用のタイミングを逸しないよう検討を進めることを期待する。</p>	<p>上記で述べた将来の利活用についてはしっかりと時間をかけて議論しなくてはならない問題であることは当然である。しかし、2020年からは道内7空港の運営の民間委託の開始が控えており、丘珠空港への影響や、むしろどういう役割を果たしていくのかということが当然問われてくる。</p> <p>民間で一つの事業を成す時間軸、そういう時間の概念を持って議論を進めなければ、時間に取り残されることは利活用ということに決定的なダメージを受ける可能性があることを共通認識を持って頂きたい。</p> <p>スパンはそんなに長くはなく、ずるずるはいかないということがこの場で確認されていけばいい。</p>	<p>コンセッション前（道内7空港の運営の民間委託が始まる前）、民間感覚の時間軸、客離れ</p>
	<p>丘珠空港の利活用に対する大きな制約となっている滑走路長の延伸について、その方向付けをして発信していくことが求められているのではないかと。</p>	<p>重点的な利活用テーマについては絞り込んでいかなければ、この利活用検討が何をやるものなのか見えてこない。丘珠空港が本当に発展的に動いていくためには、機材を大きくし、そして航空料金を一段低くして利便性の高い形で空港を利用できるようにすることが必要である。そのためには滑走路の延伸という議論は避けられず、一つの大きなテーマとなる。少なくとも向かって検討するのかがどうかという議論は、方向づけして発信するということをやしてほしい。</p> <p>もう一つ上のステップに行くには、ジャンボジェットまでいく必要はないが、ある一定のサイズの機材までいかなければグループ利用ができないため、これを改善する機材の運航を考えていかなければならない。</p> <p>施設については今のキャパシティでは足りなくなると考えており、滑走路延伸が可能となれば、空港ターミナルビルの拡充・移転も含めた可能性を探ってもらいたい。</p> <p>基本的には札幌市がどうするんだということを打ち出していかないとならない。</p>	<p>滑走路延伸、機材の大きさ、料金を低く、方向付けして発信、空港ターミナルビルの拡充</p>
	<p>都市型の空港であることから、地域のまちづくりも含めた空港の将来像を描いていくことが期待される。</p>	<p>空港の利活用を考える際、ともするとコンパクトにまとめたがちであるので、まちづくりという観点をしっかり意識して議論を進めるべきだろうと感じる。</p> <p>利用者や地域住民が求めている丘珠色、札幌色、あるいは北海道色をどのようにつけていくのか、そこから空港や周辺地域をどのようにデザインしていくのか、そういったものを明確にして空港に表現する力が求められる。</p>	<p>まちづくりの視点、都市型の空港、丘珠空港を核としたまちづくり、地域色、「らしさ」</p>
	<p>現在利用していない人達も利用するような丘珠空港の機能を考えることが重要である。</p>	<p>丘珠空港は医療や防災という社会的役割が大きいというのは周知の事実であるが、利用者数の割合で考えると仕事で利用しているという方が圧倒的に多い。また、北海道新幹線が札幌まで延伸することが決まっているが、そうなると道央圏と道南、道央圏と道東・道北との移動時間の均衡が著しく偏ってしまうことが明らかである。</p> <p>北海道内の人口が減り、広域分散化が進むことが予想されており、そういったときに今丘珠空港を利用していない人も、例えば通院であったり、教育であったりと色々な場面で丘珠空港を拠点とした道内航空ネットワークを利用していくような方向にもっていき、より多くの人々が利用できるようになることが北海道全体のサービスアップ、レベルアップになるので、その方法は何かを考えながら丘珠空港の機能を考えることが重要である。</p>	<p>今利用していない人・利用している人を分けたアプローチ、北海道内の時間・距離の均衡</p>
札幌市が行う丘珠空港の利活用に関する意見収集に係る情報提供	<p>騒音に関する説明は一般市民には分かりづらいところがあるので、例えば身近な騒音との比較など分かりやすく説明することや、騒音を受ける地域住民へ配慮することに心を砕いて頂きたい。</p>	<p>やはり地域住民にとっては、航空機騒音が一番の心配事である。環境基準というものがあり、その基準を今満たしているという話では地域住民の理解は進まない。例えば、騒音の質としては違うものではあるが、身近な道路騒音と比較して、どういった場所の道路騒音と同じ程度というような説明があれば、航空機騒音というもののイメージが湧きやすい。</p> <p>いずれ問題として出るのは便数が増えることによる地域住民が受ける騒音の増大であり、その騒音への対応を考えた方がいい。</p>	<p>分かり易い説明方法、環境基準、道路騒音、地元の理解、騒音への対応</p>
	<p>多くの人に関心を持って頂き、広い範囲で意見を収集することが求められているのではないかと。</p>	<p>公共インフラに関する話では、必ずしも地域の総意だとか多数の意見じゃない声の大きい人に左右されることがあるので、実質だとか実態をよく把握して頂く必要がある。</p> <p>丘珠空港の利活用検討に対して強い関心まではないサイレントマジョリティをそのままにしておくと、結局、市民意見は反映されないことになるため、例えばオープンハウス型住民説明会や各種イベントでの意見収集の場の設置などのような手法を用いることが、市民意見としての客観性を評価するための重要なポイントではないかと。</p>	<p>客観性の担保、オープンハウス、サイレントマジョリティ</p>